

河川基金助成事業

「仙台と川」 報告書

助成番号：2022 - 7211 - 004

宮城教育大学附属小学校

教諭 玉手 英敬

2022 年度

助成番号		助成事業名		学校名		
2022-7211-004		仙台と川		宮城教育大学附属小学校		
所在地	宮城県仙台市青葉区上杉六丁目4-1	対象河川名	梅田川・七北田川			
対象学年	4学年(120人)	主たる教科	総合的な学習の時間			
河川教育の目標	川が自分たちの生活や社会と密接にかかわっていることに気付き、川に関する問題や課題に対し解決しようとする力を育む。					
育成したい資質・能力	<p>【言語力】文章から事実を正しく読み取ったり、伝えたい内容に合わせて言葉を使い分けたりすることができる。</p> <p>【問題解決力】事象との出会いから疑問や関心ある事柄を見だし、視野を広げながら解決に迫ることができる。</p> <p>【活用力】講話や出前授業、校外学習を通して得た学びを探究に生かし、自身の生活や身の回りの事象と関連付けて思考することができる。</p> <p>【表現力】素材や相手に合わせて適切な方法を考え、伝えたい内容を分かりやすく表現することができる。</p> <p>【調整力】過程を振り返って探究の進め方を確認したり、友達と協働して取り組んだりすることができる。</p>					
学習活動の内容と成果						
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 梅田川中流、七北田川上流、七北田川下流において実地調査を行い、水流の速さや水温、生息している生き物、ゴミの数など様々な観点で調べた。 「蒲生干潟を守る会」の代表の方をゲストティーチャーとして招き、蒲生干潟に生息する生き物についてや、東日本大震災の津波の影響などについて学んだ。 調査したことをスライドショーにまとめ、保護者に発表し、感想をもらった。 川による水害について調べ、リーフレットや新聞、動画などにまとめ発表会を行った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上流、中流、下流と三カ所を調べることによって、環境や生息している生き物の違いに気付くことができた。 ゲストティーチャーと一緒に蒲生干潟を調査することによって、多くの生き物を見付けることができ、多様な生態系が築かれていることに気付かせることができた。 生態系や環境、水害対策について、調べるだけでなく発表することによって、川が身近にあり、自身の生活を関わることがあることに気付かせる契機となった。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> GoogleForms を活用し、子供が調査したいことや、調査したことの振り返りを集約することによって、共有しやすくし、子供の思いを生かしながら活動を進めることができた。 Google スライドを活用し、調査したことをまとめたり、共同編集をすることによって、より相手に伝わりやすいよう表現を工夫したりすることができた。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> 川の清掃活動や、蒲生干潟の観察会などに参加したいという思いを持つ子供が多数見られた。 水害対策について調べることによって、ハザードマップを調べたり、避難用グッズを実際に過程で準備したりする姿が見られた。 					
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関 (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「蒲生干潟を守る会」の代表の方を講師として招き、蒲生干潟の環境について講話をいただき、実地調査でも生き物の見つけ方などを御助言いただいた。 					
成果発表	成果作品			発表方法		
	プレゼンテーション、リーフレット、ポスター等			保護者に対する発表、学級内での展示		
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 上流や下流の調査を行った後、最初に調査を行った梅田川を再調査したり、清掃活動を行ったりする機会を設けることで、環境に進んで関わろうとする意識を高めたい。また、水害対策を実際に家庭でも行うことによって、実践意欲を高めていきたい。 						

河川教育学習活動報告書 【単学年】

1.助成事業名		学校名					助成番号				
							2022-7211-004				
5.実際にを行った単元構成											
注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
	川とのつながり を考える	仙台を流れる川 中流域の様子を探る	仙台を流れる川 上流域の様子を探る	仙台を流れる川 下流域の様子を探る	川との向き合い方を考え る①	川の災害を入口に 自助の方法を探る	川が育む文化の 違いを知る				
	・川の清掃に関する記事を読み、気付いたことや考えたことをまとめた。	・学校の近隣を流れる梅田川環境調査活動を通して、川への興味関心を高めながら進めた。	・宿泊学習で行く泉ヶ岳を流れる七北田川上流の環境調査活動を通して、中流との違いを比較しながら学習を進めた。	・下流域にある蒲生干潟の環境調査活動を通して、川が育む生態の豊かさに興味・関心を持ちながら学習を進めた。	・上流域から下流域にかけての調査活動を通して、分かったことをまとめ、保護者に向けて発表した。	・川による水害の記事から、自分たちにできることを調べ、まとめた。	・これまで調査した観点を基に、日本や海外の川について調べた。				
	関連教科：総合的な学習の時間	2時間	13時間	15時間	15時間	10時間	13時間	2時間			
学習活動の結果	川との出会い 【総合的な学習の時間】 ・「広瀬川1万人プロジェクト」という清掃活動の記事を読み、疑問や調べたいことを整理し、課題を設定した。	川環境調査（中流域） 【総合的な学習の時間】 ・梅田川に行き、周囲にゴミが落ちていないか、水量や水温はどのくらいか、生息している生物はいるのか、などの観点で環境調査を行った。 ・調査後、アンケートフォームを活用し、次の活動の計画を立てた。	川環境調査（上流域） 【総合的な学習の時間】 ・泉ヶ岳水神付付近に行き、梅田川と同様の観点で環境調査を行った。 ・調査後、アンケートフォームを活用し、中流との違いや、次の活動の計画を立てた。	川環境調査（下流域） 【総合的な学習の時間】 ・七北田川下流域にある蒲生干潟において、「蒲生干潟を守る会」の代表の方から、下流域の環境については話を聞いた。 ・蒲生干潟で上流域、中流域と同様の観点で環境調査を行った。	調べ学習とまとめ、発表 【総合的な学習の時間】 ・上流域から下流域にかけて調査したことをまとめ、保護者に向けて発表した。	調べ学習とまとめ、発表 【総合的な学習の時間】 ・水害に関する新聞記事を基に、川の水害の種類や、自分たちにできることを調べ、まとめた。	調べ学習とまとめ 【総合的な学習の時間】 ・これまで調べた観点を基に、対象を日本全国や海外の川まで広げ、まとめた。				
											
6. 得られた成果						7. 河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果					
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事によって子供の関心を高めたり、アンケートを活用することで子供の調査したいことを基に活動を設定したりすることで、意欲的に学びを進めることができた。 ・上流域から下流域に掛けて調査することによって、つながりを意識させることができた。 ・川がもたらす災害についても取り上げることで、川との関わり方を考えさせることができた。 						<ul style="list-style-type: none"> ・実際に川での調査を行うことによって、インターネット上で調べたこととの違いに驚きを感じている姿が見られ、年間を通じて意欲的に活動を行うことができた。 ・河川を題材として扱うことによって、子供たちにとって身近な梅田川や七北田川に目を向けさせ、知識として理解していた環境問題を実感を伴って感じさせることができた。 					

助成番号	助成事業名	学校名
2022-7211-004	仙台と川	宮城教育大学附属小学校



学習活動名：中流域の様子を探る

日付：7月11日

見られた子供の姿：

7月上旬に学校の周辺を流れている梅田川の河原観察を行い、水量や水流の速さを確かめたり、生息している虫やエビなどを発見したりした。また、河原に設置されていた看板から、梅田川が七北田川につながっていることを確かめた。観察後、振り返りを行い、どんなことを調査したいか発表し合い、整理した。

【子供の反応や気付き】

- 「ゴミを捨てる人は見なかったのにゴミが流れてきていた」
- 「生き物はいるのに、なんで魚だけがいないのかなと思った」
- 「梅田川と七北田川の合流地点を見てみたい」
- 「違う川でも梅田川と同じ条件で、調べたいです」



学習活動名：上流域の様子を探る

日付：9月14日

見られた子供の姿：

中流で話し合った結果を基に、学校行事である宿泊学習で行く泉ヶ岳周辺を流れている七北田川上流付近を調査する計画を立てた。梅田川で調査した観点に加え、水温や水の汚れについても調査を行い、梅田川との比較を行った。観察後、中流域と同様に振り返りを行い、どんなことを調査したいかを発表し合い、整理した。

【子供の反応や気付き】

- 「上流は川幅が狭く、石が大きい」
- 「上流のほうが水質が良い」
- 「上流は水がきれい、中流は少し濁っていました。ただし、上流には生き物がいなかったけど、中流はいっぱい生き物がいました」
- 「下流と中流と上流をくらべてレポートにまとめて、お母さんやお父さんに発表したい」



学習活動名：下流域の様子を探る

日付：10月27日

見られた子供の姿：

中流、上流と調査したことから、子供たちから下流も調査したいという意見が出されたため、七北田川下流である蒲生干潟の調査を行った。事前学習として、「蒲生干潟を守る会」の代表の方をゲストティーチャーとして招き、蒲生干潟には多様な生物が生息している一方で、東日本大震災では甚大な被害を受けたこと、それでも少しずつ生態が戻ってきていることを聞き、調査意欲を高めた。実際に蒲生干潟で下流を調査すると、下流の川幅の広さや、ゴミの多さにも驚き、その中でも蒲生干潟にはなぜ生物が多く集まるのかと疑問を持つ姿が見られた。

【子供の反応や気付き】

「実際に「蒲生を守る会」の活動を体験したい」

「下流にたくさんのゴミがあったので、自然を大切にしていかなければいけないと分かりました。そして、ゴミ拾いをする事で自然をきれいにしていきたい」

「梅田川上流や、泉ヶ岳から干潟に川がいくのをわかったので、干潟の生物を傷つけないために川にゴミを捨ててはいけなかったと思いました」



学習活動名：川の災害を入口に自助の方法を探る

日付：1月16日

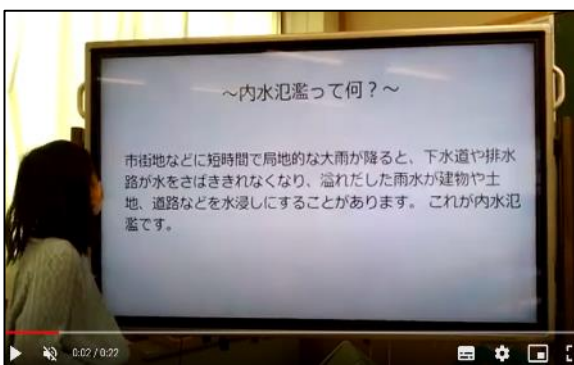
見られた子供の姿：

台風による河川の氾濫が増加しているという記事を提示することで、川には危険性もあることに気付き、自分たちには何が出来るかについて調査を行った。その後、リーフレットやポスター、新聞や動画など、目的に応じた方法を選択し、調査したことをまとめた。

【子供の反応や気付き】

「水害の種類の内水氾濫と外水氾濫があるということを学んだ」

「家族と一緒に水害が起きた時のように逃げる場所や避難する場所を一緒に考えて、実際にやってみたいと思います
「いろんな人に水害のおそろしさについて知ってもらい、事前に応の仕方について学んでほしい」



助成番号	助成事業名	学校名
2022-7211-004	仙台と川	宮城教育大学附属小学校

主な実施箇所

※環境学習を数カ所で実施している場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。

※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。

(縮尺は1/50万~1/100万程度)

※活動場所が「子どもの水辺」、「水辺の楽校」に指定されている場合には、指定場所と名称を記載してください。

助成事業の主な実施箇所

